

自然に学び、先人に学ぶ

No.16 農薬、除草剤等なぜ使ってはいけないのか？

無農薬栽培、有機農業が叫ばれて久しいですが、これを実践している人はまだまだ少ない。その理由はいろいろあると思われます。

病虫害が多くなり、生産量（販売できる量）が少なくなる。周りの農家が農薬を撒いているので意味がない。市場性（高付加価値）が確立されていない。などなどです。

逆に、最初から実践する気のない農家は、“効率よく生産して儲かることが大事、自分たちが食べる農産物は安全・安心なものをコソソリ作ればよい”と消費者のことは二の次。他にもそれぞれの考え方や事情があると思われますが、おおよそこんな感じでしょうか。

化学薬品（農薬、化成肥料、除草剤、抗生物質、ワクチン等）を使う、使わないという議論をする前に以下の文章を読んでみてください。

*すべての生命は一つである

すべて創造されたものは相互に依存し合っているから、ある形態の生命に影響を及ぼすものは当然他のあらゆる形態の生命にも影響を及ぼすことになる。

「もしわれわれが故意に他の生物のうちに苦痛や病気を引き起こすなら、われわれはわれわれ自身の苦痛や病気を増やしていることになる」

森羅万象は実験動物に加えられる病気によって影響を受けるのであって、実験動物を故意に病気にさせるやり方は始めから病気とたたかうよう運命づけられた無益な企てにすぎないと思われる。森羅万象（衆生）は生体解剖学者が無力な生きものに加える身の毛もよだつような恐ろしい苦痛によって、苦しめられるのである。このような苦痛の犠牲を強いて得られた知識によって病気を除去しようとする救済策は、どれも全体の他の部分における悩み（病気）を増やすことで、何回にもわたって罰を受けることになるのだ。無数の植物が化学除草剤で焼かれるとき、森羅万象は苦しむのである。

あらゆる被造物は戦争の犠牲者や強制収容所で拷問にかけられている収容者のひとり一人にショックを受けるのだ。それと同様、あらゆる被造物は一匹のウサギが人間（実験者）によって誘発させられた粘液腫症（ウサギの致命的病気）で死んだり、1本の植物が有害な化学薬品で故意に病気にさせられて苦しんで枯れたりすると、ショックを受けるのである。

◎あらゆる種類の生命は調和して生きるように創造されている

◎すべての生命は1つなのである。例外は1つもない



（アリク・マニクス／スコットランド人 植民地時代のインド統治官僚）

現代社会において、多くの「生命に関する課題」があります。それは、家畜の病気（伝染病）とその水際対策としてのワクチン接種と大量殺処分です。上の内容に照らし合わせて考えてみてください。新型コロナウイルスの原発が透けて見えてきませんか？